



開催報告

認知症サポーター養成講座

日時：2012年2月17日（金）14:00～16:10
 会場：北とぴあ スカイホール
 講師：佐々木 美幸さん 栗村 直美さん
 受講者：57名（北区健康福祉部高齢福祉課王子高齢相談係）



司会
上野さん

生協が地域社会の確かな担い手となり、地域になくてはならない存在としてその役割を高めるために、地域生協と医療生協が連携して福祉のまちづくりを進めています。

「福祉のまちづくり・北」では、北区が取り組む「おたがいさまネットワークの協力団体」として、2月より「生協の高齢者見守り活動」を始めました。見守り活動を始めるにあたり、認知症を正しく理解するために「認知症サポーター養成講座」を開催しました。



主催者挨拶
本光さん

区内を走る90台以上の地域生協の配送車と医療生協の往診車を活用し、業務中に気づいた「気がかりなこと」を報告していこうと見守り活動が始まりました。

本日の講座で、認知症とはどういうものか、どう接したらよいのか、ご家族はどうすごされているのか理解を深めましょう。

- ・北区の高齢化率は23区で最も高い24.9%（約4人にひとりが65歳以上）
- ・高齢者の相談窓口である地域包括支援センターは13箇所。
- ・北区の認知症サポーターは、7200名以上。
- *地域の力を借りて、より住みやすいまちにしていきたい。

認知症サポーター養成講座
 主催 福祉のまちづくり・北



講師の佐々木さん・栗村さん

～ 認知症を理解しよう ～

- ◆認知症とは…いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりして障害がでている状態。
- ◆原因となる疾患は…70種類以上あり、正常圧水痘症など治療で治るものや、アルツハイマー型認知症のように薬で進行を遅らせることができるものもあり、早期診断・早期治療が大切です。
- ◆認知症の症状は…記憶障害や見当識障害などの「中核障害」さらには、本人の性格や置かれた環境などによって、うつ状態や妄想、徘徊などの「行動・心理症状」がおこる。
- ◆認知症の人と対応するときは…偏見を持たず、認知症を抱える人が安心して生活できるように支援するという姿勢が大切で、その心得は

- 1 驚かせない 2 急がせない 3 自尊心を傷つけない

誰にでも起こりうる脳の病気です。

見当識障害では

何回も「今日は何日？」と聞いたり、自宅でトイレの場所がわからなくなったり、時間や方向感覚、季節感が薄れます。

もしかしたら認知症？

最初に気づくのは自分自身。認知症かもしれないと悲しんでいるのは本人です。本人のプライドを傷つけないようそれとなく手助けを。



～ 認知症の方への対応を考えよう ～

認知症の方への悪い対応を見て(DVD) 対応の仕方のどこが悪くて、自分ならどのように対応するかグループになって話し合いました。

話し合った対応の仕方は、ロールプレイで発表!!
グループでの話し合いやロールプレイを通して、認知症の方への具体的な対応のポイントを押さえることができました。



事例① ゴミの収集日を間違えてしまったAさんに・・・

体を低くして
同じ高さの目線で
ゆっくりと
話しました



びっくりさせないように
Aさんと目を合わせて
から 話しかけました

収集日に声をかける
さりげないお手伝いを
することにしました

カツラをかぶり、
役者になりきって
ユーモアたっぷりに
発表しました

事例② 小銭も持っているのに、お札を出して 買い物をするBさんに・・・

自尊心を尊重しました

急がせないよう気をつけ
笑顔で接しました



事例③ 公園で近所のおじいちゃんを 見かけた子どもたちは・・・

お散歩なのか、お買い物なのか、
徘徊なのかわからないけれど・・・

大勢で囲むと恐怖心をもつので
一人(お母さん)が声をかけました



～ アンケートより ～

(アンケート44枚提出)

- 認知症が特別な存在ではなく、個性的な一人という見方ができる社会になればよいと思います。
- 「お手伝いしましょうか？」など、声のかけ方が参考になりました。
- あたたかく見守るだけでも重要なことだと感じました。
- 近所どうしのコミュニケーションにより、認知症の方の事故防止になると感じました。
- 地域の方々と協力しながら、見守りや居場所づくり、ちょっとしたお手伝いがあるとよいと思います。
- 家族をもっと手助けする人が欲しいと思います。
- 超高齢化社会をむかえるにあたって、配送中にもいろいろコミュニケーションをとって、高齢者の生活に立つように取り組んでいかなくてはならないと思いました。



- 地域で働く生協ならではの見守りをしたい。組合員だけでなく地域の人から頼りにされる生協になりたいです。



57名の方々が養成講座を受講し、
認知症サポーターとなりました。

認知症サポーターは、何か特別なことをする人ではなく、認知症を理解した「応援者」です。他人事として無関心でいるのではなく、「あたたかい目で見守る」ことから始めましょう。



閉会挨拶
岩井さん

～ 講座を終えて ～

85歳以上の4人に一人が認知症といわれています。年をとれば誰もがなりうる病気であるのに、広く理解がされておらず、周りの人や地域はどう支えていけばよいのか問われています。

今回の講座には、見守り活動スタートに合わせ、認知症への理解と対応を学ぶため、19名の会員生協職員が組合員と一緒に受講しました。

受講者からは「地域内での協力やつながりあえる関係づくり」「いざという時に助け合える地域づくりを生協が起点となっていく」など、生協への期待の声や、「対応のポイントがわかった」など、認知症への理解がすすみました。

高齢者や認知症があっても、本人が自分らしく住み慣れた地域で暮らし続けられることを、みんなで支えていけるとよいですね。

